

令和6年度実施
東北大学大学院情報科学研究科
博士課程前期入学試験問題
(2024年8月28日)

専門試験科目 第5群
(一般)

言語・メディア群
(メディア系)

注意

- 以下には、専門科目が4問出題されている。
- 受験者は、そのなかから3問を選んで、答案用紙に解答すること。
- 試験終了後、答案用紙に加えて、この問題冊子も回収する。

問題 1

Barbosa, P. L. S., et al. (2024) は、Adaptive learning について、以下のように述べている。

ここに下記文献の抜粋が入ります

Paddy Ladd, *Understanding Deaf Culture: In Search of Deafhood*, Bristol, Multilingual Matters, 2003, pp.78-79.

p.1 の小見出し Abstract の1文目、 Adaptive learning approach で始まる文から、2文目の終わり、 knowledge, strengths, and weaknesses. まで掲載

※この資料は著作物二次使用に係る著作権処理が、出典元との間で未完了のため、公表することができません。

これを踏まえて、Computer Science Education において、Adaptive learning を導入する際の課題と可能性について、あなたの見解を述べなさい。その際、日本語または英語で、合わせて答案用紙1枚程度で論じること。

出展 : Barbosa, P. L. S., Carmo, R. A. F. D., Gomes, J. P., & Viana, W. (2024). Adaptive learning in computer science education: A scoping review. *Education and Information Technologies*, 29(8), 9139-9188.

問題 2

以下は、文部科学省による「特別支援教育の現状」（*1）における「学びの場の種類と対象障害種」についての記述である。

障害のある子供の学びの場については、障害者の権利に関する条約に基づく「インクルーシブ教育システム（参考1）」の理念の実現に向け、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられるように条件整備を行うとともに、障害のある子供の自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の整備を行っています。

【参考1】 障害者権利条約によれば、インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な機能等を最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。（中教審初中分科会報告平成24年7月より）

この記述を踏まえ、1) 2) について、日本語または英語で、合わせて答案用紙1枚程度で論じなさい。

- 1) インクルーシブ教育システムの理念の実現に向けてどのような課題があるとあなたは考えるか。
- 2) 1)で論じた内容はあなたの研究テーマとどのように関連しているか。

*1：文部科学省『特別支援教育の現状』https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm
（参照日：2024/08/11）

問題 3

下記は、Joshua Meyrowitz（1985）“No Sense of Place”からの抜粋である。下記の文章を読んで、メディアのアクセシビリティと社会参画について、あなたの考えるところを日本語または英語で、合わせて答案用紙 1 枚程度で論じなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります

Joshua Meyrowitz（1985）*No Sense of Place: The Impact of Electronic Media on Social Behavior*, Oxford University Press

p.331 の 2 段落 1 行目”The term media of communication”から 2 段落 2- 3 行目“in particular ways.”まで掲載。途中“As I use the term,”から nonverbal behavior are not.”の 1 文は省略。

p. 73 の 1 段落 1 行目“Perhaps the primary characteristic of any medium”から 12 行目”set of situations.”まで掲載。

p.334 の 4 段落 1 行目“I suggest that”から 6 行目“different social information.”まで掲載。

※この資料は著作物二次使用に係る著作権処理が、出典元との間で未完了のため、公表することができません。

出典：Joshua Meyrowitz（1985）*No Sense of Place: The Impact of Electronic Media on Social Behavior*, Oxford University Press, p.73, p.331, p.334

問題 4

以下の文章を読み、

(1) ろう文化研究に脱植民地化の視点を導入することに、どのような意義があるとあなたは考えるか、

(2) (1) で論じた内容はあなたの研究テーマとどのように関連しているか、

の2点について日本語または英語で、答案用紙1枚程度で論じなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります

Paddy Ladd, *Understanding Deaf Culture: In Search of Deafhood*, Bristol, Multilingual Matters, 2003, pp.78-79.

p.78 の小見出し Colonialism の最初の段落の2文目、Having spent a decade で始まる文から、

p.79 の2段落目終わり、a higher profile in education (cf. Freire, 1986). まで掲載

※この資料は著作物二次使用に係る著作権処理が、出典元との間で未完了のため、公表することができません。

注

Deaf 近年、ろう文化を語る際に、小文字で始まる deaf と大文字で始まる Deaf の使い分けがされることが多い。前者は「聞こえない（聴覚障害の）」、後者は「手話者の」の意味で用いられる。

cochlear 耳の最深部にあり、音の受容をつかさどる「蝸牛（かぎゅう）」。

Oralism 音声言語を生物進化の最先端に位置づけ、手話を「原始的」な動物の身ぶりと同一視する、19世紀後半に起った思想。「口話主義」。

出典 Paddy Ladd, *Understanding Deaf Culture: In Search of Deafhood*, Bristol, Multilingual Matters, 2003, pp.78-79.